

第 部 外部評価・第三者評価の実施状況

第Ⅲ部

外部評価・第三者評価の実施状況

本学においては、平成5年度から外部評価が積極的に実施されており、また、平成12年度から大学評価・学位授与機構による大学評価が実施されている。平成15年度の第三者評価・外部評価の実施状況については、以下のとおりである。(ただし、大学評価・学位授与機構による評価は、平成14年度着手分である。)

また、平成16年度にも歯学研究科・歯学部、北方生物圏フィールド科学センターにおいて、外部評価の実施が計画されている。

なお、これまでの実施状況については、巻末の点検評価関係資料の中に「北海道大学における第三者評価・外部評価実施状況一覧」として、とりまとめている。

【平成15年度の実施状況】

大学評価・学位授与機構による大学評価

1 北海道大学（全学）

1 評価区分

全学テーマ別評価

2 テーマ及び対象分野

国際的な連携及び交流活動

3 評価方法

書面調査・ヒアリング

4 対応組織

点検評価委員会大学評価事業専門委員会

5 評価資料

1) 自己評価書

2) 書面調査段階における確認事項等

3) ヒアリングでの確認事項等

6 評価の結果

平成16年3月に大学及びその設置者に提供されるとともに、印刷物の刊行及びウェブサイトへの掲載等により公表される。

7 評価結果の活用

本学の国際的な連携及び交流活動の充実・改善に活用

2 地球環境科学研究科

1 評価区分

分野別教育・研究評価

2 テーマ及び対象分野

総合科学

3 評価方法

書面調査・訪問調査

4 対応組織

地球環境科学研究科点検・評価委員会

5 評価資料

1) 自己評価書

2) 総合科学型プロジェクト別研究活動調書等

3) 訪問調査時の確認事項

6 評価の結果

平成16年3月に大学及びその設置者に提供されるとともに、印刷物の刊行及びウェブサイトへの掲載等により公表される。

7 評価結果の活用

地球環境科学研究科の教育・研究・管理運営等の充実・改善に活用

各部局設置の評価委員会等による外部評価

1 教育学研究科・教育学部

1 実施時期

平成15年10月3日（金）

2 目 的

教育・研究活動，管理運営等についての現状分析と将来に向けての提言を得る。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

教育学研究科・教育学部全体

4 実施方法等

評価のための資料を事前に配付し予め検討願い，その後，教育学研究科・教育学部において評価を受け，意見交換を行った。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	担当分野
日本	北海道教育大学	学 長	村 山 紀 昭	評価項目全般について、専門的立場から評価・検討を行う。
日本	東北大学大学院教育学研究科	研 究 科 長	菊 池 武 剋	
日本	北海道教育委員会 (代理：教育庁生涯学習部)	教 育 長 (教育指導監)	相 馬 秋 夫 (佐 藤 義 昭)	
日本	日本教育学会	会 長	寺 昌 男	
日本	株式会社ラルズ	代表取締役社長	横 山 清	
日本	北海道高等学校長協会	会 長	武 内 光 一	

6 外部評価委員の選考方針

専門分野に造詣の深い学識経験者で、大学、高等学校、教育委員会、企業等幅広い範囲から選考した。

7 外部評価項目

教育・研究、管理運営

8 外部評価資料

1) 第3回有識者懇談会報告書

2) 北海道大学大学院教育学研究科・教育学部概要(平成15年度)

3) We Like Humans(2003年)

4) 平成16年度大学院入学案内・募集要項

5) 研究と教育の報告(1998年～2001年)

6) 研究者総覧(協力講座を含む)関係分

7) 研究活動一覧(協力講座を含む)関係分

8) 教育・管理運営・社会貢献活動一覧(協力講座を含む)関係分

9) 有識者懇談会資料(学部学生の入学状況、学部学生卒業者の進路状況、大学院生の入学状況、大学院志願者・入学者状況、社会人志願者・入学者の勤務先内訳、修士課程修了者の進路状況、博士後期課程修了者・単位取得退学者の進路状況、外国人留学生数、科学研究費補助金申請及び採択件数、教育学研究科中期目標・中期計画)

9 外部評価の結果

取りまとめの上、報告書を作成

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

北海道大学大学院教育学研究科・教育学部有識者懇談会報告書 - 第三者点検評価報告書 - (平成16年2月刊行)

11 実施経費の内容

校費

12 外部評価結果の活用状況

外部評価で得た結果については、今後、教育学研究科・教育学部における教育・研究、管理運営等に活用していく予定である。

13 外部評価の感想、反省点、改善点及び今後の予定等

評価については、現在取りまとめ中であり、まとめ次第、反省点、改善点等について

検討し、今後の教育・研究、管理運営等に反映させる予定である。

2 電子科学研究所

1 実施時期

平成16年1月31日（土）

2 目的

電子科学研究所の組織・運営及び社会との連携について学外有識者から提言をいただき、法人化後の研究所の将来構想と運営の貴重な指針とする。

3 実施対象（専攻、部門、分野等）

電子科学研究所全体及び研究部門（附属施設を含む。）

4 実施方法等

- 1) 電子科学研究所外部評価実施準備委員会において、実施方法、実施体制等を検討した。
- 2) 電子科学研究所外部評価実施準備委員会において、外部評価委員を決定した。
- 3) 外部評価委員に事前に「電子科学研究所の挑戦 - 平成9～14年度の実践と計画 - 」及び関係資料を送付し、評価検討の依頼をした。
- 4) 外部評価実施日に、研究所全体及び研究部門（附属施設を含む。）について説明を行い、質疑、応答の後、各外部評価委員から講評をいただく。
- 5) 各外部評価委員に、2月末をメドにペーパーによる評価報告書の提出を依頼する。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野
日本	東北工業大学通信工学科	教 授	澤 田 康 次	生命科学・コミュニケーション科学
日本	名古屋大学大学院医学研究科	教 授	曾我部 正 博	イオンチャネルの分子機構
日本	岡崎国立共同研究機構分子科学研究所	所 長	茅 幸 二	物理化学
日本	東京工業大学	学 長	相 澤 益 男	生物工学・バイオセンサー・生命情報工学
日本	東北大学多元物質科学研究所	所 長	中 西 八 郎	機能・物性・材料
日本	日本経済新聞社札幌支社	支社長	辻 教 雄	言論界

6 外部評価委員の選考方針

国立大学及びそれに準じる組織の長、関連学会の会長、民間の研究所の所長経験者並びに各分野で国際的かつ第一線で活躍している著名な専門家の中から選考した。

7 外部評価項目

理念 組織と運営 予算 研究活動 国際交流 教育活動 社会貢献 第一回外部評価の結果とその運営への反映 将来構想

8 外部評価資料

- 1) 電子科学研究所の挑戦（外部評価資料）
- 2) 電子科学研究所概要（2003～2004）
- 3) ナノテクノロジー研究センターパンフレット
- 4) 北キャンパスパンフレット
- 5) 個別評価のまとめ

9 外部評価の結果

未定

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

未定

11 実施経費の内容

所長リーダーシップ支援経費，奨学寄附金委任経理金

12 外部評価結果の活用状況

外部評価の結果を踏まえ，具体的な活用方法を検討する。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

未定

3 遺伝子病制御研究所

1 実施時期

平成16年 1 月16日（金）

2 目 的

本研究所は、平成12年 4 月に免疫科学研究所と医学部附属癌研究施設が「遺伝子病の制御に関する学理及びその応用の研究」に資することを目指すため統合し、設立され、3年余が過ぎ、また、来年 4 月から国立大学法人となることから、この間の業績等について学外有識者に評価を受け、法人化後における研究・教育及び運営一般等について、広く意見・批判を伺うこととした。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

研究所全体及び各研究分野（施設を含む）

4 実施方法等

- 1）当研究所点検評価委員会において、外部評価実施要項及び外部評価委員を決定した。
- 2）外部評価委員会開催にあたり、外部評価委員に「外部評価資料」を送付、事前に資料による評価を受けるとともに、本研究所において委員会を開催し、上記 2 の目的についての説明・質疑応答等を行い、評価を受けた。
- 3）各外部評価委員からの意見・提言等をもとに外部評価委員会委員長が集約し、報告書を作成した。

5 外部評価委員

国籍	所 属	職 名	氏 名	専門分野等
日本	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所	所 長	勝 木 元 也	発生生物学
日本	国立国際医療センター研究所	所 長	笹 月 健 彦	免疫学
日本	埼玉医科大学ゲノム医学研究センター	所 長	村 松 正 實	生化学
日本	東京大学	名誉教授	吉 田 光 昭	腫瘍ウイルス学
日本	株式会社ティーセル研究所	所 長	熊 谷 勝 男	細胞免疫学
日本	東北大学大学院医学研究科	教 授	菅 村 和 夫	免疫学
日本	大阪大学大学院医科学研究科	研究科長	山 西 弘 一	ウイルス学

6 外部評価委員の選考方針

免疫学,癌学,生化学,分子生物学,ウイルス学,病理学等を主として,当該分野の権威者である各機関及び大学等の有識者及び経験者を外部評価委員として選考した。

7 外部評価項目

1) 全体評価

理念 管理運営機構 教官の選考方法 教官の流動性 予算関係 施設設備 教育活動 教育業績 国際貢献 研究支援体制

2) 各分野等

研究業績 研究業績のレベル 外部資金獲得 教育業績 国際貢献 社会貢献

8 外部評価資料

1) 北海道大学遺伝子病制御研究所外部評価資料

2) 北海道大学遺伝子病制御研究所概要

3) 北海道大学概要

9 外部評価の結果

取りまとめの上,印刷公表

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

外部評価報告書(平成16年2月刊行)

11 実施経費の内容

奨学寄附金(旅費,謝金),校費(外部評価資料,報告書印刷費等)

12 外部評価結果の活用状況

1) 統合したことによる,より一層の研究業績の発展に役立てる。

2) 今後の中期目標・中期計画など当研究所の管理運営・教育・研究活動に反映させる。

13 外部評価の感想,反省点,改善点及び今後の予定等

外部評価結果をベースに今後,反省点や改善点等について検討するとともに,今後の本研究所の研究・教育活動等に反映させる予定。

4 附属図書館

1 実施時期

平成15年11月20日(木)~平成15年11月21日(金)

2 目的

「附属図書館の現状-自己点検・評価報告書-」に基づき外部有識者による評価を行い,もって図書館サービスの高度化及び業務の改善に資する。

3 実施対象(専攻,部門,分野等)

附属図書館(実地視察は附属図書館本館,北分館,部局図書室の一部(医学部,工学部))

4 実施方法等

1) 検討経緯

図書館委員会において平成15年度の事業として外部評価を実施することとし,実施要領を定めた。

2) 実施方法

図書館委員会において外部評価委員の構成を決定した。

外部評価の基礎資料とするため学生，教官等無作為抽出者2000名に利用者アンケート調査を行った。

外部評価委員の実地視察に先立ち「附属図書館の現状 - 自己点検・評価報告書 - 」及び関係資料を事前送付し，評価検討の依頼をした。

委員会当日に，同報告書等に基づき附属図書館の現状について説明を行い，質疑，応答の後，施設，設備の調査，部局図書室の実地視察及び利用者との懇談会を行った。

評価結果を報告書にまとめ図書館長へ提出される。

5 外部評価委員

国 籍	所 属	職 名	氏 名
日 本	東北大学	前附属図書館長	小 田 忠 雄
日 本	北海学園大学	附 属 図 書 館 長	小 林 真 之
日 本	北海道立図書館	館 長	河 村 猛 将
日 本	山形県立米沢女子短期大学	助 教 授	佐 藤 義 則
日 本	(株)環境設計	代 表 取 締 役	下 村 憲 一
日 本	京都大学附属図書館	事 務 部 長	大 埜 浩 一

6 外部評価委員の選考方針

図書館運営の関連分野から，高い見識と経験のある学外者を国立，公立，私立，民間から幅広く選考した。

7 外部評価項目

北海道大学附属図書館の理念・目的，利用者サービス，情報資源の収集・組織化，情報資源の管理・運用，電子図書館機能，施設・設備，研究開発機能，管理運営，予算，広報，北海道大学附属図書館システム

8 外部評価資料

- 1) 附属図書館の現状 - 自己点検・評価報告書 - 」
- 2) アンケート実施結果
- 3) 北海道大学図書館委員会「学術コンテンツの整備に関する検討小委員会」報告書
- 4) 北海道大学附属図書館増築・改修検討小委員会報告
- 5) 北海道大学概要
- 6) 北海道大学附属図書館概要
- 7) 北海道大学附属図書館北方資料室概要
- 8) 北海道大学附属図書館報「榆蔭」
- 9) 北海道大学附属図書館報速報「榆蔭レター」
- 10) 利用の案内

9 外部評価の結果

取りまとめの上，報告書を作成

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

北海道大学附属図書館外部評価報告書（平成16年2月刊行）

11 実施経費の内容

校費（報告書印刷費，郵送料他），講師等旅費

12 外部評価結果の活用状況

今後の附属図書館における中期計画に反映するとともに利用者サービス，管理運営，電子図書館化等の改善に活用する。

外部評価結果に基づき，反省点，改善点等について検討し，今後の図書館サービス，管理運営等に反映させる。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

2日間の日程では過密スケジュールで十分な討議ができなかった。法人化後の中期目標に外部による点検評価の実施を掲げており，今回の評価で指摘された事項の再点検を含めて再度実施したい。

5 高等教育機能開発総合センター

1 実施時期

平成15年7月5日（土）

2 目的

「北海道大学高等教育機能開発総合センター点検評価報告書（平成10年度～平成13年度）」に基づき，学外有識者による検証を受け，提言を得る。

3 実施対象（専攻，部門，分野等）

全学教育部，高等教育開発研究部，生涯学習計画研究部，入学者選抜企画研究部

4 実施方法等

1）検討経緯

高等教育機能開発総合センター点検評価委員会で，外部評価の実施を決定

2）実施方法等

外部評価委員に5名を決定

外部評価委員に事前に北海道大学高等教育機能開発総合センター点検評価報告書及び関係資料を送付し，評価検討の依頼をした。

外部点検評価実施日に，センター全体，全学教育部及び各研究部について説明を行い，質疑・応答の後，各外部評価委員から講評をいただいた。

外部評価委員長から，1月末を目処にペーパーによる評価報告書の提出を依頼した。

5 外部評価委員

国 籍	所 属	職 名	氏 名	担当分野
日 本	筑波大学大学研究センター	センター長	山 本 眞 一	全 体
大韓民国	東京大学大学院人文社会系研究科	客 員 教 授	権 斗 煥	全 体
日 本	国立学校財務センター	教 授	丸 山 文 裕	全 体
日 本	京都大学高等教育研究開発推進センター	教 授	田 中 毎 実	全 体
日 本	広島工業大学	学 長	茂 里 一 紘	全 体

6 外部評価委員の選考方針

点検評価委員会において，人格識見高く，かつ，本センターの振興発展に感心と理解の

ある学外者の中から選考した。

7 外部評価項目

センターの理念・目標及び組織，全学教育部，高等教育開発研究部，生涯学習計画研究部及び入学者選抜企画研究部の点検評価

8 外部評価資料

- 1) 北海道大学高等教育機能開発総合センター点検評価報告書(平成10年度～平成13年度)
- 2) 北海道大学の教養教育について - コアカリキュラムとはなにか? (2ヶ国版)
- 3) 一般教育演習ガイドライン
- 4) 北大の全学教育はどのように行われているか? - 平成12年度後期アンケート調査 -
- 5) 北海道大学の全学教育 - 教養教育と基礎教育 -
- 6) 学生生活実態調査報告書 2002年版

9 外部評価の結果

取りまとめの上，報告書を作成

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

北海道大学高等教育機能開発総合センター外部評価報告書(平成16年3月刊行)

11 実施経費の内容

校費(報告書印刷費)，講師等旅費，諸謝金

12 外部評価結果の活用状況

今後の高等教育機能開発総合センターにおける教育・研究活動等に活用し改善に努める。

13 外部評価の感想，反省点，改善点及び今後の予定等

外部点検評価については，取りまとめ次第，反省点や改善点等について検討するとともに，今後の本センターの教育・研究活動等に反映させる予定。

6 総合博物館

1 実施時期

平成16年3月13日(土)～平成16年3月14日(日)

2 目的

平成11年4月設置から現在までの展示活動，教育研究，管理運営等の状況や成果について，自己点検評価を実施すると共に学外有識者による検証・提言を受ける。

3 実施対象(専攻，部門，分野等)

全般(展示活動，教育研究，管理運営など)

4 実施方法等

- 1) 総合博物館点検評価委員会において，外部評価委員の選考，点検評価項目について検討。
- 2) 外部評価委員に事前に資料を送付し，評価項目について検討を依頼。
- 3) 外部評価委員会にて質疑・討論を行い，評価を受ける。

5 外部評価委員

国 籍	所 属	職 名	氏 名
日 本	国立科学博物館	館 長	佐々木 正 峰
日 本	京都大学総合博物館	館 長	山 中 一 郎
日 本	東京大学総合研究博物館	教 授	大 場 秀 章
日 本	滋賀県立琵琶湖博物館	館 長	川那部 浩 哉
日 本	北海道開拓記念館	館 長	山 田 家 正
日 本	北海道新聞社	編集局文化部長	前 川 公美夫
日 本	札幌市教育委員会	委 員	矢 野 義 和

6 外部評価委員の選考方針

国立大学博物館・国公立博物館において展示活動・教育研究・管理運営等に携わっている人物。博物館活動について、深い関心と理解のある学外有識者。

7 外部評価項目

博物館活動（展示，教育普及，標本管理など），教育・研究活動，管理運営，国際交流，社会連携・地域貢献

8 外部評価資料

- 1) 外部評価資料
- 2) 総合博物館概要
- 3) 総合博物館例規集
- 4) 総合博物館ニュース
- 5) 総合博物館中長期計画書
- 6) 総合博物館研究報告

9 外部評価の結果

取りまとめの上，報告書を作成

10 外部評価報告書等の名称及び刊行年月

北海道大学総合博物館外部評価報告書（仮題）（平成16年3月刊行）

11 実施経費の内容

校費（会場費，報告書印刷費），講師等旅費